

オリンピックで感動したこと

六つ川台小学校 3年 女子

今年の夏は、日本でオリンピックがありました。コロナで一年おそいかいさいになったこともあり、テレビでオリンピックのせんでんをたくさん見ました。わたしは今までオリンピックをちゃんと見たことがなかったので、「オリンピックってどんなかんじなんだろう」と思っていました。

テレビでいろいろなきょうぎを見た中で、とくにいんしょうにのこっているものは、たっきゅうとスケートボードです。

まずたっきゅうは、水谷せん手というせん手のこん合ダブルス決しょうを見ました。相手は世界ランキング一位の中国です。水谷せん手がつらい体せいでボールを打ったり、いとうせん手が強いボールを打ったりして、中国ととてもはやいラリーをしていたので、しゃべるのをわすれるぐらいむ中で見ていました。かった時に、水谷せん手というせん手がだき合ってよろこんでいたのがとてもよかったです。いつもねている時間をすぎていたのでとてもねむかったけど、がまんして見ていてよかったです。

次にスケートボード女子パークです。スケートボードをちゃんと見たのは初めてだったので、女の子がすごい大わざをれん発していたのが、とてもかっこよかったです。わたしだったら、ころんだらいたそうなので、こわくてできません。でも、日本のせん手たちはみんな、えがおで楽しいと言っていてすごいなと思いました。けっかはよそずみせん手が金メダル、ひらきせん手が銀メダルでした。一番いんしょうにのこっているのは、四位のおか本せん手です。おか本せん手は世界ランキング一位だけど、ころんでしまってメダルがとれませんでした。さい初はないていたけれど、ほかの国のせん手がおか本せん手をかた車してあげていたのを見て、ライバルなのになかがよくてすてきだなと思いました。女子スケートボードはほかにストリートでも、十三さいの西やせん手がどうメダルをとり、日本はこんなにスケートボードが上手なんて知らなかったのでおどろきました。

さいしょは、ただきょうぎをして金銀どうってメダルをあげるものだと思っていたけれど、金銀どうのけっかだけじゃなく、ほかの国のライバルとはげましかったり、助け合ったりする気持ちにとっても感動しました。

次のオリンピックは、三年後にフランスのパリで行われます。わたしは六年生になるので、まだまだどんな感動があるのか楽しみにしたいと思います。

コロナをのりこえ描くゆめ

六つ川台小学校 3年 女子

わたしのゆめは、ホテルやりよかんでほたらくことです。わたしは人がすきて、だれとでもすぐなかよくなれるので、日本中、せかい中の人とかかわりたいからです。

この夏、そのゆめのことを、もういちど強く心に思う出来事がありました。ホテルでのけっこんしきにおよばれたのです。コロナのかんせんよぼうのため、一年いじょうえんきになっていたしきでした。さんれつしゃもへらし、家族のみになりましたが、ずっと楽しみにしていました。

ロビーでしきはじまるのを待っていると、外国の方たちが次々とチェックインしてきました。そのホテルは、オリンピックかんけいしゃのしゆくはくホテルだったようです。

たいへんな中来てくれたんだ、とうれしい気もちで見えていましたが、わたしたちとかれらの歩く場所はロープでくぎられていました。海の見える気もちのよいロビーでしたが、みんな早足で通りすぎていきました。おたがいにコロナにかんせんしないように、ホテルの方々もオリンピックかんけいしゃの方々も気をつけていました。

でもやっぱり、少しもったいないとかんじました。本当だったら、オリンピックで来てくれるせかい中のみんなにも、近くにあるかんらん車にのってみてほしかったし、ちゅうかがいでおいしいものを食べてもらいたかったです。

コロナのきけんがなくなるころには、ホテルやりよかんでほたらいて、この思いがじつげんできればよいと思いました。日本中、せかい中から来てくれた人々に、この町のよいところをしょうかいしたいです。できれば、なかよくなればよいと思います。

そして、いっしょうけんめいはたらいてお金があたまったら、こんどはわたしがいろいろな国に行きたいです。その土地で友だちをつくり、その言葉、おいしい食べ物、すばらしいけしきをいっしょに楽しみたいです。

もしかしたら、その時のオリンピックかいさい国にも行けたらすてきだなあと思います。

感動したオリンピック

六つ川台小学校 4年 男子

2020年延期になっていた東京オリンピックが今年開催されることが決まりました。僕は、はじめコロナの感染が広がっているの、やってほしくないと思っていました。しかし、出場選手の頑張りを見ていたら、コロナのことも忘れてしまいうくらい感動していました。これまでの練習してきたことをすべてオリンピックで発ぎして、メダルをたくさんとることができて、選手たちはすごいと思いました。また、なぜこんなに頑張れるのかなと考えました。

今回の種目の中で、僕はサッカーと空手の形がとくに印象に残りました。サッカーでは、ゴール前のとても緊張する場面で何点も決めた久保選手は、サッカーも上手くて、心も強いと思いました。ほかに、久保選手がいるところにメンバーがパスを出し、ゴールが決まっていて、チームワークがとてもよかったです。日頃の練習から、コミュニケーションをたくさんとることで、チームワークが良くなっているのかなと思いました。3位決定戦で負けてしまったときに久保選手が、

「これまでやってきて一番くやしかった。」

と言っていました。僕も水泳の進級テストで落ちてしまったときに、悔しいと思うことはあっても、来月また頑張ろうと思います。しかし、オリンピックは4年に1度の全世界が注目する大会です。そこに向けて何年も頑張ってきたからこそ、この言葉が出たんだと考えました。

空手の形は、オリンピックで見る前からきょう味があり、喜友名選手の演技をみて、ますます習いたいという思いが強くなりました。演技中の動きのすごい力にとってもひきこまれました。体力だけではなく、強い精神力や集中力がなければできないと思いました。

オリンピックをみて、応援している僕も、緊張感やうれしい、悔しい、ハラハラ、ドキドキする色々な気持ちを感じました。出場選手は僕の数倍もこのような感情を持っていると思います。勝つと感動するし、負けると悔しい思いをするからこれまで以上に努力します。よく考えてみると、僕が感じた「選手はなぜそんなに頑張れるのか。」という答えは選手の心にあることがわかりました。体力はオリンピック選手のようにまだなれませんが、これからは僕も心が強くなるようにしたいです。まずは、勉強やスポーツで色々なことにチャレンジします。進級テストなどで落ちてしまっても、どこが悪かったのか、自分で考えることにします。思い切りくやしがり、そしてもっともっと練習をがんばります。オリンピック選手のように全力で頑張ることで、周りの人をおどろかせるようになりたいです。

ぼくのオリンピックの思い出

六つ川台小学校 4年 男子

ぼくは、リオオリンピックの時には、四歳だったので、全然記憶がありません。だから、オリンピックがどんな感じか、わかっていませんでした。だから、オリンピックを「やめよう」とか「やるべきだ」とかテレビで言っていた時、ぼくは、せっかくだから見てみたいなあと思っていました。

東京オリンピックは、ちょうど連休の時に始まりました。オリンピックが始まると、テレビではいつもオリンピックの番組をやっていました。コロナのためにステイホーム中で、出かける予定もなかったのですが、ぼくの親がとても熱心にオリンピックを見ていたえいきょうでぼくも一緒に見ました。その中で、母の一押しの選手が柔道の阿部兄妹ということで、色々教えてくれました。兄妹同日金メダルがとれたら史上初ということで、テレビでもとても話題でした。

柔道の試合を僕は今回初めて見ましたが、「指導」「技あり」「一本」と3つある事をぼくは知りました。負けたら終わりの一回勝負なので、選手はみんなとても緊張しているし、とても集中しているように見えました。4年間、この時のためだけに頑張ってきているとテレビで言っていました。ぼくも運動会の前にはリレーの選手になれるように走るのを頑張ったりスイミング教室でテストの時頑張ったり泳いでいるけど、ずっとそのためにそれだけを頑張っていたりするわけではないし、また次のテストの時頑張ればいいかなあと思ったりするので、この日のためだけにずっと頑張るのは、すごいことだと思いました。

ぼくは、阿部兄妹が二人で金メダルを取って喜んでいるのもすごく記憶にのこったけど、ぼくは柔道の高藤選手が一番好きでした。家族からは、「えー？判定ばかりだったじゃん。」といわれたけれど、金メダルの後の泣いているところとか、判定でも勝つという戦略にしているところが、かっこいいなと思いました。

今回のオリンピックで色々な競技を見て、スポーツって色々あるんだなと知ることができました。ぼくとあまり年齢が変わらない子がメダルを取っていて、小さい子でもメダルが取れるんだとおどろいたし、ぼくが遊んでいるときにも練習しているのは、すごいなあと思いました。そして、みんな好きで練習したり頑張っているのにもびっくりしました。ぼくは、今そこまでお中になって頑張れるものはないけれど、見つけて頑張りたいです。

オリンピックから感じた私の願い

六つ川台小学校 5年 女子

令和三年、東京オリンピックのせい火台に火がともりました。コロナウイルスが感せんかく大して、一年えん期してからのオリンピック開さいだったので、色々な意見を耳にしました。私は、コロナウイルスが流行っていなかったら、選手のそばで応援したかったです。

私はスポーツの中で水泳が得意です。三年生から出場できる水泳のジュニアオリンピックの標準タイムをとっばし続けることができます。だから今回は、競泳に注目してテレビを観ていました。

あこがれの池江り花子選手は、一度はあきらめていた東京オリンピックに決勝まで残ることができて幸せだと、インタビューで話していました。私はこの言葉から勇気をもらい、あらためて池江り花子選手の強さを知りました。

女子で金メダルを二つ取った大橋ゆい選手のレースでは、気付いたらテレビに向かって家族全員大きな声を出していました。それくらいお中になって応援をしていました。まず、四百メートル個人メドレーのゴールしたしゅん間、応援していた選手が金メダルをとったのでうれしくなりました。次に二つ目の金メダルをとった二百メートル個人メドレーの直後には、とてもいい笑顔だったことが印象に残っています。その時に大橋ゆい選手は、

「勝っても負けても何があっても後かいはないといえるように泳ごうと思って」と話していました。それを聞いて私は、オリンピック選手がこの日のためにきついトレーニングや練習をして調整をしてきたからこそ、その努力してきたものを全部出してちょう戦するオリンピックには、世界中に勇気や感動をあたえる力があるのだと思いました。

私は、今年の夏も水泳のジュニアオリンピックに出場が決まりました。学校の放課後、友達と遊ぶ時間はあまりないけれど、それでも私はジュニアオリンピックに毎年出ることが目標なので、がんばってこれているし、これからもがんばりたいと思っています。

まだコロナウイルスとの戦いは続いていくと思います。だから家族や友達、先生や地域の人と助け合っていくことが大切だと思います。三年後のパリオリンピックでは世界中のみんなが心の底から笑顔で応援できますように。